

作成 2001年01月09日 改訂 2025年04月01日

*規制物質含まず

4. 応急措置

試薬や測定液が

眼に入った場合 : 直ちによく洗眼する。

皮膚に付いた場合 : 直ちに多量の水で触れた部分をよく洗い流す。

口に入った場合 : 直ちに多量の水で口の中をよく洗い流す。

内容物を飲み込んだり、上記の措置後に異常があった場合には、直ちに医師の手当を受ける。

5. 火災時の措置

消火方法 : 火元への燃焼源を断ち、消火剤を使用して消火する。

消火剤 : 水(噴霧)、粉末消火薬剤、炭酸ガス、乾燥砂

6. 漏出時の措置

屋外では、試薬や廃液がこぼれないように注意する。

屋内では、机面・床面等に試薬や廃液がこぼれた場合は直ちに拭き取り、廃棄する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い : 試薬は眼や皮膚に触れたり、口に入れたりしないように注意する。

特にチューブ内の粉末試薬は吸い込まないように注意する。

また、屋外での使用時には、試薬および測定後の廃液、使用済み容器は必ず持ち帰る。

保管 : 直射日光を避け、換気のよい乾暗所(常温)に保管する。

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度(作業環境評価基準) : 設定されていない。

許容濃度(日本産業衛生学会) : 設定されていない。

(ACGIH(TLV(s))) : 設定されていない。

(OSHA(PEL)) : 設定されていない。

保護具 : 保護眼鏡・保護手袋等の使用が望ましい。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态 : 粉末入りチューブ 1.1g×50本/キット 5本ずつアルミラミネート包装

試薬の色 : 白色(粉末)、半透明(ポリエチレンチューブ)

試薬の臭い : なし

測定時 pH : 3

混合物として融点、沸点、引火点、発火点、爆発限界下限、蒸気圧、密度、比重、溶解性、Pow、動粘性率等のデータなし。

10. 安定性及び反応性

高温、多湿、直射日光下への放置を避ける。

通常の使用条件では安定であり、特定条件下で生じる危険な反応もなし。

危険有害な分解生成物についてのデータなし。

11. 有害性情報

混合物についてのデータはない。個別物質について記す。

スルファニル酸 :

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分2A

ガザを用いた眼刺激試験において、滴下後24時間の結果「moderately irritating」との記述があり(IUCLID(2000))、EU分類ではXi:R36(EU-Annex I(access on 11 2008))であるため区分2Aとした。

皮膚感作性 : 区分1

モルモットを用いたMaximization testにおいて、「sensitizing」との結果が2件(IUCLID(2000))、それに加えモルモットを用いた複数の皮膚感作性試験で陽性の結果が得られている(全てIUCLID(2000))。またEU分類ではR43(EU-Annex I(access on 11 2008))であるため区分1とした。

ポリエチレン:

急性毒性 経口-ラット LD₅₀:>7,950mg/kg (下記, ATEmix値算出時は7,950mg/kgとして計算)
発がん性 IARCのグループ 3 (ヒトに対する発がん性は評価できない。)
その他の項目についてのデータなし。

以下、混合物としての GHS 分類判定について記す。

[急性毒性(経口)], [急性毒性(経皮, 吸入)], [皮膚腐食性/刺激性], [眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性],
[呼吸器感作性または皮膚感作性], [生殖細胞変異原性], [発がん性], [生殖毒性],
[特定標的臓器毒性(単回暴露)], [特定標的臓器毒性(反復暴露)], [誤えん有害性]
以上の項目は、区分外または含有成分のデータがそろっていないため分類できない。

12. 環境影響情報

混合物についてのデータはない。個別物質について記す。

ポリエチレン: 環境有害情報についてのデータなし。

以下、混合物としての GHS 分類判定について記す。

[水生環境有害性 短期(急性)], [水生環境有害性 長期(慢性)]
加算式の適用判定の結果、区分外に分類される。
[オゾン層への有害性]

含有成分がモトリオール議定書の附属書に列記されていないため、分類できない。

13. 廃棄上の注意

測定後の廃液は pH3 の酸性である。事業活動で使用する場合は、各関係法令に従って適切に廃棄する。
それ以外の場合は、残余廃棄物や使用済み容器はそのまま「燃やすゴミ」としての廃棄も推奨する。

14. 輸送上の注意

取扱い及び保管上の注意の項の記載による他、容器が破損しないように乱暴な取扱いを避ける。
また、長距離の輸送の場合は長時間の高温状態は試薬の劣化が考えられるため、航空機による輸送が望ましい。

国連分類・番号	該当せず。
航空法	該当せず。
消防法	該当せず。
製品総重量	約140g/キット

15. 適用法令

毒物及び劇物取締法	該当せず。
PRTR法	該当せず。
労働安全衛生法	本製品はスルファニル酸を 0.1%以上 1%未満含有し、以下に該当する。 「法施行令（名称等を通知すべき危険物及び有害物）第18条の2 第2号」（R7.4.1以降）

16. その他の情報

引用・参考文献

NITE（独）製品評価技術基盤機構 GHS 分類結果データベース ID:m-nite-121-57-3_v1 4-アミノベンゼンスルホン酸
製品安全データシート No.051110033、東ソー株式会社(2004.07.09)
国土交通省航空局監修、航空危険物輸送法令集、鳳文書林出版販売(2019)
JIS Z 7252:2019 GHSに基づく化学物質等の分類方法（日本工業標準調査会 審議）
JIS Z 7253:2019 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法（ラベル、作業場内の表示及び安全データシート（SDS））（日本工業標準調査会 審議）
GHS国連文書（仮訳 改訂4版）、GHS関係省庁連絡会議(2011)
経済産業省、事業者向け GHS 分類ガイドライン（平成25年度改訂版）(2013)

注) この情報は、必ずしも充分ではないので、取扱いには注意をお願いします。
本データシートは情報を提供するもので記載内容を保証するものではありません。
新しい知見やそれに伴う従来の考え方の修正等により、記載内容に変更が生ずることがあります。
なお、注意事項は通常の実験を対象としております。

更新履歴 (2024/04/01以降)

2025/04/01 労働安全衛生法の改正に伴う改訂